

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座

工原 No.9【副産物と連産品】

収録日：平成 25 年 8 月 18 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 126 回原価計算
全経簿記上級過去問 165 回工業簿記

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	8	20	13	
副産物	○	◎	◎	
物量基準	△	◎	◎	
市価基準	△	◎	◎	
修正見積正味実現可能 価額法	×	◎	◎	
追加加工	△	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所では説明又は例題あり

日商・全経とも最近出題されるようになってきました。
工業簿記でも原価計算でも出題できる。さらに追加加工の意思決定に関連させる事もできる。そ
して等級別原価計算の理解を問う事もできる。
という訳で、しっかり確認しておく必要があります。

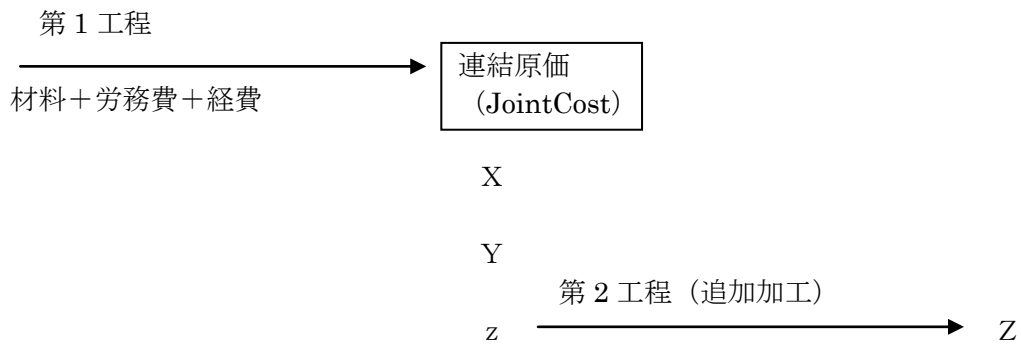
日商の過去問は計算項目多いので、まずは全経の過去問でしっかり理解を深めましょう。
その上で日商の過去問にチャレンジして下さい。

U-TUBE 無料動画ではレジュメで説明します。

ダウンロード講座では、全経 165 回の過去問を説明します。

連産品

基本的には工程別+等級別総合原価計算の考え方



X : Y : Z 数量で按分して各原価算出 (2級の等級別と同じ)

X : Y : Z 見積販売価額 (見積正常市価) で按分して原価算出
(X : Y : z でそのまま按分は無理 Zの金額から zを逆算)

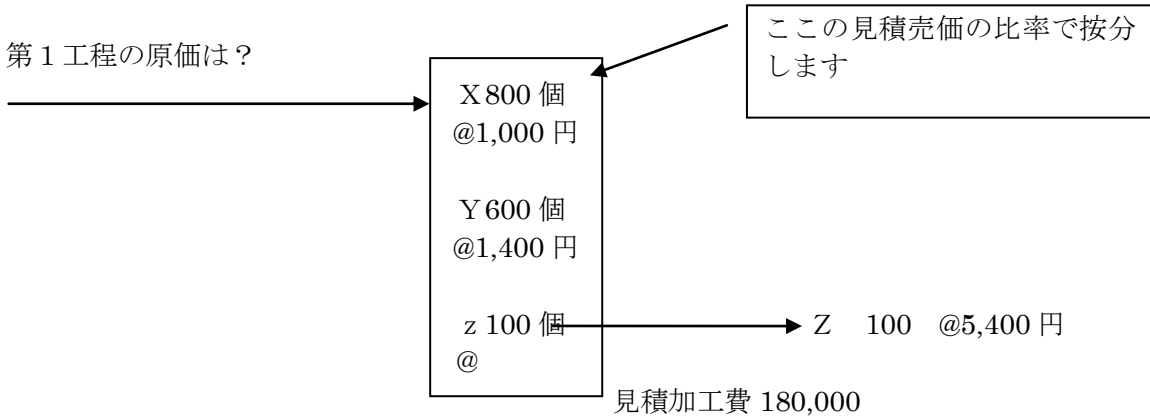
尚、連結原価の按分計算時はすべて見積価格や見積数量で計算
その後の実際原価計算は実際額で計算

(例題)

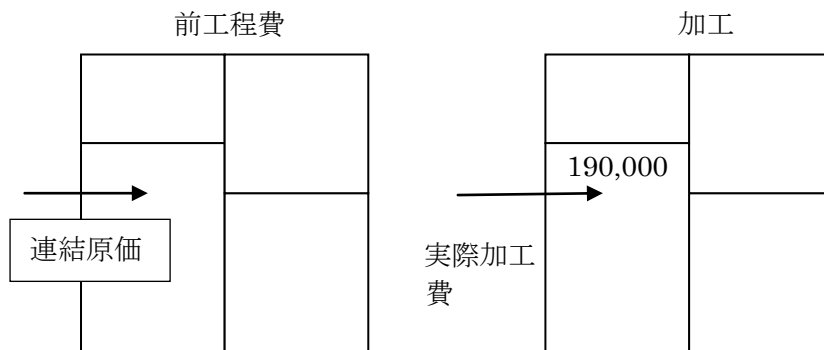
第一工程の原価は 1,500,000 (1,500 個が完成した。)

製品	生産数量	正常売価	分離後の個別実際(見積)加工費
X	800	1,000	
Y	600	1,400	
Z	100	5,400	190,000 (180,000)

第 1 工程の原価は？



第 2 工程 (Z のみ)



修正見積正味実現可能価額法（こんなイメージです）

	A	B	計
売上	10,000	20,000	30,000
連結原価			15,000
追加加工費	1,000		
利益			15,000
利益率			50%

この表からAとBの原価を求めよう

	A	B	計
売上	10,000	20,000	30,000
連結原価	4,000	10,000	15,000
追加加工費	1,000		
利益	5,000	10,000	15,000
利益率	50%	50%	50%

副産物の処理は「仕損の評価額」と同じ方法で計算

副産物発生地点を月末仕掛品が通過していたら両者負担（度外視法）という考え方も同じ。色々な設例が考えられるので、問題文の指示に従う事。

※165回 工業簿記 連算品

※1工程

14,280,000

※2工程

(10,203,000)

⊗ 8,000

3,397,600
 (4,250,000)

⊗ 8,000 × @ 1.700 = 13,600,000

⊙ 7,668,360

⇒ 11,918,360 @ 1.489,795

(5,396,000)

⊙ 6,000

2,254,000
 (2,250,000)

⊙ 6,000 × @ 1.275 = 7,650,000

⊙ 4,055,520

⇒ 6,305,520 @ 1.050,92

(7,400,000)

⊗ 1,000

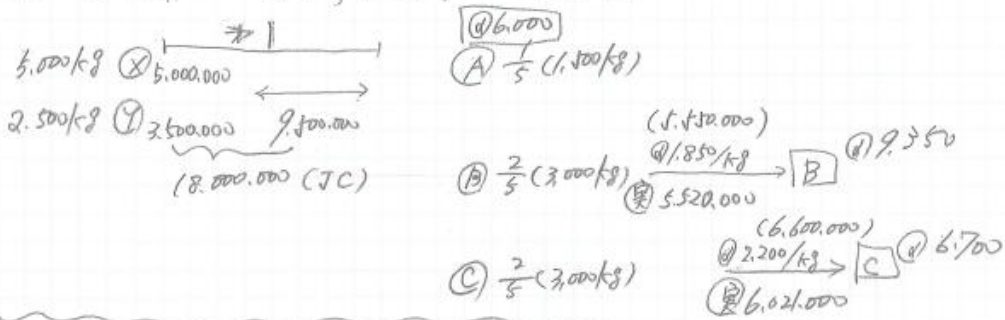
⇒ 7,400,000

⊙ 2,556,120

@ 2,556.12

19,000.-

原価計算 日商126回 連産品



① (7割量)

(A) 3,600,000

(B) 7,200,000

(C) 7,200,000

(FL/FD)

②

368,500	150	3,000	7,208,500	1,700,300	400	3,000	12,732,100
138,500	(75)		5,520,500		3,000		
7,200,000	3,000	150	360,000	12,729,000			
5,520,000	(3,000)	(75)	138,500		400		1,697,200

③

120,000	50	2,400	5,170,000	689,500	150	2,500	11,570,000
55,750	(25)		5,352,000				
7,200,000	3,000		1,560,000	11,112,000	2,400		
6,021,000	(2,700)	650	724,750		50		231,500
		(325)					

① (10割)

(A) 9,000,000

(B) 22,500,000

(C) 13,500,000

(両配分) 18,000,000

(A) 3,600,000

(B) 9,000,000

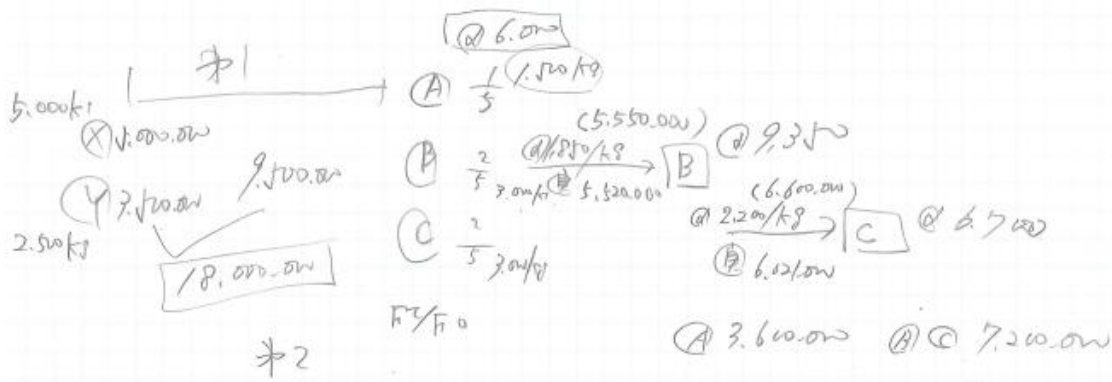
(C) 5,400,000

②

368,500	150	3,000	8,918,500	1,700,300	400	3,000	14,214,100
	(75)		(5,520,500)		3,000		
9,000,000	3,000	150	450,000	14,439,000			
	(3,000)	(75)			400		1,925,200

③

120,000	50	2,400	4,350,000	689,500	150	2,500	10,189,375
	(25)		(5,352,000)				
5,400,000	3,000		1,170,000	9,702,000	2,400		
	(2,700)	650			50		202,125
		(325)					



\textcircled{A} $\frac{1}{5}$

368,500	150	3,000	7,200,500
138,500	(25)		5,520,500
7,200,000	3,000	1,500	36,000
5,520,000	(3,000)	(25)	138,000

\textcircled{B} $\frac{2}{5}$

1,700,300	400	3,000	12,732,100
12,732,000	3,000		400
			1,697,200

\textcircled{C} $\frac{2}{5}$

120,000	50	2,400	5,760,000
55,750	(25)		5,352,000
7,200,000	3,000	650	1,560,000
6,021,000	(2,700)	(25)	724,750

\textcircled{B} $\frac{2}{5}$

689,500	150	2,500	11,570,000
11,570,000	2,400		50
			231,500

\textcircled{A} $9,000,000$ ($7,600,000$)
 \textcircled{B} $22,500,000$ ($9,000,000$)
 \textcircled{C} $13,500,000$ ($5,400,000$)

\textcircled{A} $\frac{1}{5}$

45,000,000	368,500	150	3,000	8,918,500
	138,500	(25)		5,520,500
9,000,000	3,000		1,500	36,000
5,520,000	(3,000)	(25)		138,000

\textcircled{B} $\frac{2}{5}$

1,700,300	400	3,000	12,732,100
12,732,000	3,000		400
			1,697,200

\textcircled{C} $\frac{2}{5}$

120,000	50	2,400	5,760,000
55,750	(25)		5,352,000
7,200,000	3,000	650	1,560,000
6,021,000	(2,700)	(25)	724,750

\textcircled{A} $\frac{1}{5}$

120,000	50	2,400	4,320,000
5,400,000	3,000		5,352,000
6,021,000	(2,700)	650	1,170,000
	(25)		

\textcircled{B} $\frac{2}{5}$

689,500	150	2,500	10,189,375
9,702,000	(2,400)		50
			202,125

前頁はこの清書
 実際は、この下書きで解きました